

発寒ひかり
保育園だより

2022年
1月号

巻頭言

10月に入り、めろんファミリーときりん組（年長）の子どもたちに、私のお腹に赤ちゃんがいることを伝えました。子どもたちは、驚きながらも「赤ちゃん、かわいいね」「おとこのこ？おんなのこ？」などと話してくれました。それから、赤ちゃんのことを気にかけて、「赤ちゃんは、どれくらいのお大きなの？」と聞いたり、お昼寝前に「赤ちゃん、おやすみ」と私のお腹をさすってくれたり、子どもたちの優しさにいつも温かい気持ちになりました。異年齢保育の中で、自分より下の子をお世話する経験や赤ちゃんに触れ合う時間が長い子どもたちの、自然な姿なのだと感じました。

きりん組では、赤ちゃんができてから産まれるまでの話をしました（命の講座）。小さな受精卵から、だんだん人間らしい姿になっていく様子に驚く子どもたち。命がけの出産であること、命はたった一つしかないことなどを真剣に伝えると、Jくんが「産まれてくることは奇跡だね」と自分の感じたことを教えてくれたのです。その奇跡であるたった一つの自分の命と周りの人の命を大切にすること、人だけでなくあらゆるものに命があることを子どもたちと語り合うことができました。子どもたちが、命について真剣に向き合い意見を伝え合える姿に胸が打たれました。いつまでもこの気持ちを忘れないでほしいです。

しばらくの間、保育園から離れるのはとても寂しいですが、子どもたちからのエールや、保護者の皆様から頂いた温かいお言葉を胸に、産休に入ります。そして、保育士として母として一回り大きく成長して戻ってきますので、よろしくお願ひします。

きりん組・めろんファミリー担任 高橋 郁美